

研究結果報告書

東アジア海域における相生のための交流研究：九州・沖縄をめぐる「船の道」を中心に

所属：高麗大学校 グローバル日本研究院

役職：教授

氏名：宋 浣範(他2名)

①研究の目的と研究のための簡単な活動内容

本共同研究は、一国の国境にこだわらず、九州と沖縄を取り巻く国々のリシプロカルな交流における「相生と協力」への歴史的事例を導き出している。韓国の九州・沖縄の研究に相生と協力という新たな交流史への視座を提供し、韓国における東アジアの海域研究の発展に貢献するとともに、現在の東アジアの相生と協力への端緒を歴史の事例から探ろうとした。そして2019年7・8月、全国規模の学術会議に特別発表会を設け、共同研究の趣旨を公開して共有し、相生交流史への研究を呼びかけた。

②海外出張（海外での簡単な研究活動）

2020年5月5日～15日にフィールドワーク調査を行ったが、長崎及び五島の踏査に首藤明和（前・長崎大学多文化社会学研究科長）・王維（同大学多文化社会学部教授・国際交流委員長）・楢取龍（同大学人文社会科学域事務部）の協力を得て、日中関係の縁の地を確認した。また鹿児島から那覇まで旅客船に乗り、歴史の「海の道」を体験して、そして現地での資料調査も行った。

③研究を通じて発見・解明された内容

研究を通じて、九州海域を巡る多様な相生のあり方やその痕跡が検討できた。第一、古代日本の南島ルートの検討し、「南島」からの使者の往来と「南島」との交流が古代国家形成における外部との重要な役割を果たしたことを追究した。第二、仮面神ミルクが除災招福を願う儺の行事における中国の仮面神弥勒(福建省の踊弥勒)や韓国の釜山に伝わる仮面劇・水宮野流との類似性を持っていることを明らかにした。琉球におけるミルクは東シナ海の文化交流の証拠となる。第三、薩摩藩や琉球のパリ万博への参加は西洋に彼等の存在を知らせる重要な事件であり、琉球においては、牧志恩河事件・琉日隠蔽策などからみると薩摩藩を通じて新たな西洋世界への日琉隠蔽を貫き、独立国としての琉球の位相を現れようとしたと考えられる。

④研究を通じて見えた課題や将来に対するアドバイス

共同研究のテーマに関連して、九州海域を含める東アジアの海域に属する日中韓の関係には、いまや共存ではなく相生(ともに生きる)という観念を加える必要がある。ちなみに、相生とは異なるもの同士と一緒に存在するための問題のない共存の関係に限らず、異なるもの同士がよい影響を与え合い、盛り上げ合いながら危機の時代にwin-winするための生き方を共に追求するものをもとにする。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 会議名：2019年度 全国海洋文化学者大会「東アジア海域の相生交流」
 - ・日時：2019年7月5日、9：00
 - ・場所：済州大学人文2号館1425号
 - ・発表者 (本共同研究者のほか、5人発表、合わせて発表者8人)
 - ①宋浣範「九州南北『船の道』における五島列島と南島」
 - ②張慧珍「19世紀琉球王国の海の道における国際交流と日琉関係」
 - ③辛權始「沖縄のミルク信仰と東アジアの仮面文化」

2. 会議名：日本歴史文化学会「東アジアの相生のための交流の痕跡」
 - ・日時：2019年8月23日、9：30
 - ・場所：淑明女子大学眞理館612号
 - ・発表者 (本共同研究者のほか、1人発表、合わせて発表者4人)
 - ①張慧珍「幕末幕府と薩摩藩と琉球王国の政治的動向」
 - ②辛權始「信仰と仮面—沖縄ミルクを中心に—」
 - ③宋浣範「在日知識人の金達洙と『日本の中の朝鮮文化』」

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

- ・『東アジア古代学』(59号) 投稿予定(投稿期間：7月中)
 - ①宋浣範「九州において南北の「船の道」としての五島列島と南島—日本の国家使節・遣唐使と南島の使臣を中心に—」
 - ②辛權始「琉球の民俗芸能と『海の道』による文化交流—仮面・仮装芸能の東アジア—」
 - ③張慧珍「条約時代における琉球の『海の道』の変容」

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

なし